

# 「国語の力」を育む IT 活用

## ～提示型教授用ソフトを利用した実践授業報告～

光村図書出版株式会社  
開発部 馬場泰郎  
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

### 1. はじめに

インターネットや校内 LAN が全国的に整備されつつあり、デジタルコンテンツを利用した授業も多くの学校で見られるようになってきた。しかし国語においては、文字を中心とした教材がデジタル化・映像化に馴染みにくいことや教科指導の特性から、ほとんど普及していない。そこで光村図書では、「教科書コンテンツのデジタル化」に着手し、教授用ソフトウェア「デジタル教科書」の開発を進めることとした。

今回は、岡山県内の小学校で行われた 1 年生と 3 年生の実践授業の様子と成果をご報告する。(いずれの授業も電子情報ボードを使用)

### 2. 「デジタル教科書」の開発コンセプトと基本構成

「デジタル教科書」とは、プロジェクタなどの教材提示装置を用いた一般教室での一斉学習のための教授用ソフトウェアである。一般教室における普段の授業の中で教科書と併せてご活用いただくことを基本とし、「教科書を忠実に再現すること」と「シンプルな構成と操作性」を開発コンセプトとした。

基本構成は、

- (1)教科書の忠実な再現を目指した「教科書ビュー」(図 1)
- (2)本文を拡大し読むことを重視した「本文ビュー」
- (3)挿絵を拡大表示した「挿絵ウィンドウ」
- (4)漢字の筆順などを学習できる「新出漢字ウィンドウ」
- (5)教材をより深め発展させるための資料を収録した「参考ウィンドウ」

からなり、それぞれ書き込み機能、朗読機能、部分拡大機能などを有する。




図 1. 「教科書ビュー」

### 3. 実践授業報告 その 1 — 第 1 学年「はなの みち」—



この教材は、小学校で初めて習う童話であり、絵と文章の両面から楽しむことができる物語である。今回の報告は 6 時のうち第 4 時の授業であり、「周りの情景の変化に気づくとともに、暖かくなって花が咲いたことを喜ぶ登場人物の心情を豊かに思い描くことができる。」ことを本時のめあてとしている。

学習のながれ	教師の指導・支援、学習活動	活用の様子
1. 前時までの復習  2. 本時の学習場面を知る。  <input type="checkbox"/> 4 枚の絵を並べる。  <input type="checkbox"/> 朗読する。	ー挿絵から分かることを発表しよう。  ・ひとりずつ前に出て、電子情報ボード上で絵を物語の順番に並べる。(図 2)  ・挿絵を見ながら朗読を聞き、音読する。	 図 2
<input type="checkbox"/> 文章から分かることを発表する。  <input type="checkbox"/> 挿絵から分かることを発表する。(本時の中心的展開内容)  <input type="checkbox"/> 挿絵の中の空欄を考える。  3. スライドショーを観て物語全体を振り返る。	・あたたかいかぜ⇒長い時間の経過 ・ながい、ながい⇒言葉の繰り返し⇒とても長い ・いっぽんみち ⇒一本を強調 ・挿絵から分かること、登場人物の様子を発表する。(図 3)  ・空欄に何が入るかを発表し、電子情報ボード上の空欄をクリック。答えを表示させる。(図 4)	 図 3

<p>4. 振り返りカードに書き込む。</p>	<p>・本時を振り返らせ、カードに書き込む。5段階反省欄のみでもよい。</p>	 <p>図4</p>
-------------------------	---	---

#### 4. 実践授業報告 その2 — 第3学年「ありの行列」—

この単元は、身近な生き物に興味をもち、まとまりに気をつけて文章を正しく読むことを目標としている。6時のうち第4時の授業であり、「2回目の実験の仕方と、観察しているありの様子を読み取り、まとめることができる。」ことを本時のめあてとしている。

学習のながれ	教師の指導・支援、学習活動	活用の様子
<p>1. 前時の振り返りをする。</p> <p>2. 学習範囲を音読する。</p> <p>3. 本文と挿絵を使って、ありの行列の様子を読み取る。</p>	<p>・前時の学習の挿絵を投影して全員で振り返る。ありの道を書き込んで確認する。 —ありは、どこをかって巣に帰るのかな？</p> <p>・本時の学習内容を音読して、学習範囲をクラスみんなで確認する。(図5) 間違えやすい漢字や書き順を大きく映して練習。 —今日の段落を読んで、めあてをもとう。漢字の読み、書き順も確認しておこう。</p> <p>・読み取った内容をデジタル教科書に書き込んで、発表する。行列に石の絵を置いたりして、ありの行列の様子を確認して理解を深める。(図6) —石を置くとありの行列はどうなるかな？ありはどこを通るだろう？</p>	 <p>図5</p>  <p>図6</p>

#### 5. 実践していただいた先生方の声

今回、実践していただいた先生方からは、以下のようなご意見をいただいた。

- ・教科書だけの授業に比べ、内容の理解がしやすく、理解の深まりにも期待ができる。
- ・内容への興味関心を持ちやすく、持続している。
- ・発表意欲が高まり、多くの児童が積極的に発表をしたがった。
- ・挿絵等の拡大表示により、細部をよく見るようになるため、深く考えようとする態度が見られる。
- ・教科書と併用することで、児童一人ひとりの考えを全員で確認でき、情報の共有が容易になった。

こうした実践から、「デジタル教科書」は従来の国語の授業スタイルを大きく変えていくものとして捉えることができるだろう。